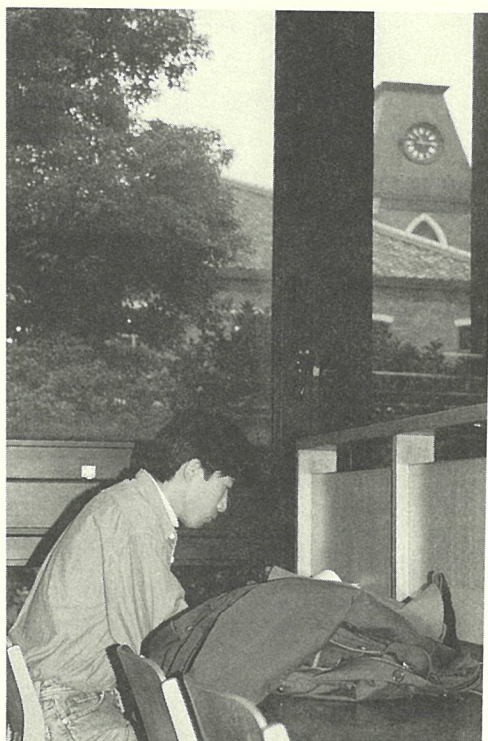


同志社大学 学術情報センター報



目次

特集 学術情報へのアプローチ	
わたしと情報—その周辺の背景—	渡 辺 信 一 2
経済学とデータ	河 合 宣 孝 5
DOORSが開く情報の世界	8
連載 学術資料の利用1 一次資料と二次資料	10
テープライブラリー所蔵ビデオリスト	12
特別研究図書費による購入図書資料リスト—1992年度—	13
お知らせ	14

わたしと情報

—その周辺の背景—

渡 辺 信 一

はじめに

個人レベルでの情報要求・収集・処理について、より具体的内容は、他の執筆者が書いて下さるものとして、拙稿は、情報に関する一般論ないし序論程度に留めたい。

まず「情報」(Information)の定義であるが、もともと“有用なもの”という前提がある。また必ずしも系統的なものではなく、断片的、耳からの知識をも意味する。しかしながらここでは原則として「学術情報」ないし「研究情報」を“広義に”捉えたものとして考えたい。そしてさらに今日、情報の形態そのものが、極めて多様化したものであり、情報収集の方法、それらの蓄積や検索の方法、さらには利用の形態も大いに異なるものであることも予め心に留めておいてもらいたい。

記録媒体の多様化

ところで上記の情報の形態であるが、例えば、米国におけるスクール・メディア・センターでは、今から5年も前のガイドラインで、コンパクト・ディスク、CD-ROM、ビデオディスク、光ディスク、ビデオテックス、コンピュータ・ソフトウェア、対話式ビデオ、そしてケーブルや衛星を利用しての通信などは、今やコレクション(つまり“情報”)の一部となっており、従来の図書、手書き写本、報告書、マイクロ資料、マルチメディア・パッケージ、標本、模型、オーディオ／ビデオ録音・録画資料、フィルムストリップ、スライド、16mmフィルム、コンピュータ・ディスクなど、伝統的な考えの資料にとどまるものではないと明記している(1988・ALA刊)。このようにして、われわれの周囲には、印刷メディアと非印刷メディア(聴覚的、視覚的及び電子的方法で蓄積された)が、情報基盤となっていることに着目されたい。

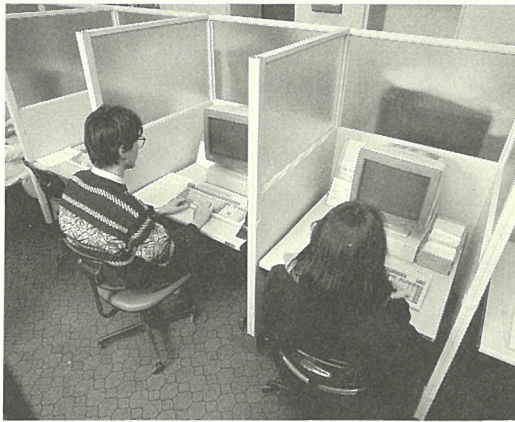
情報整理さまざま

10年ばかり前に、広報課からの依頼で学生諸君向け『同志社大学通信』(No. 41)に、ファイル資料とファイリング・システム、そしてカード・システムをテーマとした「情報整理学のすすめ」なる、いささか気取ったタイトルのもとに、情報を効率的に収集・整理してレポートや論文を作成するためのノウハウを書いたことがあった。ファイリング・システムは、戦後米軍関係のオフィスで〈ヴァーチャル・ファイリング・ケースなどが〉多用されていたこともあって、わが国の企業や官庁、図書館などで情報の整理、保管そして迅速な資料の検索、提供ないし利用のために日常業務の中で広く用いられてきた。このシステムは、個人レベルでの情報処理としても大変便利なものであった。

一方、カード・システムは、カードのもっている特性や利点を生かして、ノートに記入・記録すべき調査研究の結果としての情報をカードに記入して、それを一定の体系のもとに整理して活用される。筆者が、今から20年ばかり前に米国に留学中、教授やクラスメートたちは、カラフルなB6版の色カードを多用していた——私自身、クラスや図書館で“情報”をせっせと



文具カタログに溢れるファイリング・システム



図書館の目録検索コーナー(今出川)

色カードに書き込んでレポートやテストに備えた。わが国において、カードによる情報の処理は、かつて梅棹忠夫氏の著書『知的生産の技術』(岩波新書 1969年刊)でつとに有名である。そして現在では、それらは電子的媒体による情報処理に移行してきた。(あえて“機械による”情報検索と言わずとも、「情報検索」と言えば、コンピュータによるオンライン情報検索を意味するようになって久しい。)ただそれらが、余り大量でない、限られた個人レベルでの情報処理にとどまる場合には、現在でもファイリング／カード・システムが大切に使われている。同種のものとして、学内の文房具売場で、各種

のファイルやファイルボックス、ホルダーのたぐいが、それである。

大量の情報の中で…

ひと頃、ニューメディアの時代、“情報の爆発”(Information Explosion)なるコトバが頻繁に用いられ、それが記録媒体の多様化へと結びついたところから、大量の情報を瞬時にして検索できるシステムが発達してきた。例えば文部省共同利用機関・学術情報センターのNACSIS-IRであるとか、世界最大のデータベースを有するDIALOGなどは、本学でもおなじみであり、大量の情報を効果的に検索できるという意味で、CD-ROMの活用も大いに期待されるところである。(それらは、当『センター報』で詳細に紹介されており、熟読をおすすめする。)

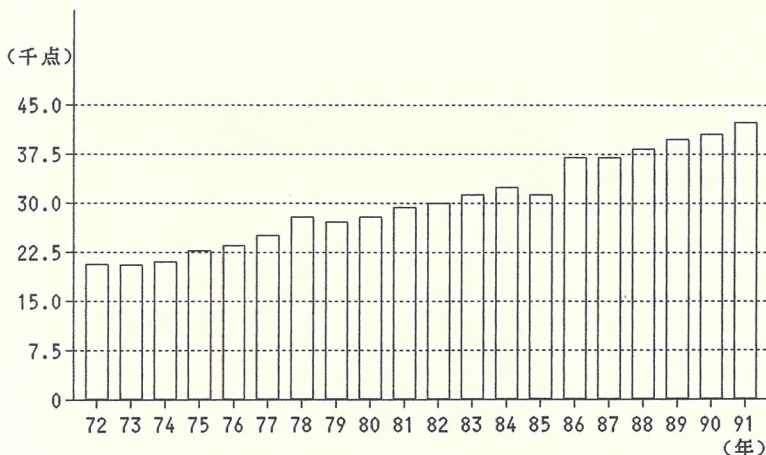
情報入手のためのアプローチ／姿勢

次にどのような姿勢で「情報」に接すべきかという(編集者からの)質問であるが、これはむしろ自分の研究／専門領域の特性から判断されるべきであろう。まさにケース・バイ・ケースである。

例えば、(用いる)「情報源」そのものについても、図書を主体としているか；それとも図書よりも(情報を少しでも早く入手できる)雑誌(図書館用語では「逐次刊行物」)を主たる情報源としているか(理工系の研究者によっては、一刻も早く情報を入手する上で、ひと頃“プレプリント”を最重要視した。); また情報(資料)は、この数年間の新しいものに限定するのか；それとも古い情報(資料)も(が)必要なのか――。

また情報を入手する際にその対象として、(一般に少数派と思われるが)個人の情報(蔵書)だけが対象となるのか(極端な話、指導教授の研究室にある主要著書を提示してもらって、それを借用して卒論

図1 新刊書発行点数の推移



資料：『出版年鑑1992』(出版ニュース社)より作成。

やレポートを執筆する学生もいる!?); 在籍する自分の大学の図書館(のみ)をフルに活用するケースであるか; さらに他大学の図書館や都道府県立の中央図書館、国立国会図書館を直接訪ねたり、あるいは在籍する大学の図書館を通してILL(相互貸借サービス)を活用するケースなど…。(これら情報に接する際の個々の対応の仕方については、具体的に詳述すべきであろうが、紙面の関係から省略する。)さまざまな状況により、「情報」への接し方が異なってくる。言わずもがなのことではあるが、上述の事柄は、あくまでも専門領域のちがいで生じる較差の問題であって、決して情報に接する場合の巧拙のちがいでない。ただし、極端な例であるが、情報を入手する際に、街の本屋さんへ行ってやみくもに店頭を探しまわる人がいるが、その愚は避けてもらいたい。出版部数と小売店数との関係やその他の要素を考えるならば、これ程でたらめな情報の探し方はない筈だが、学生諸君が往々にして犯すあやまりであり、これは“拙”の部類に属するといえよう。

情報収集／処理能力の向上

同一／同種の専門分野での情報検索に関して、その情報収集／処理能力については、学生諸君によって巧拙の格差に開きがある。これは得てして、4回生になって卒論との関係で図書館を利用する段階で、その優劣が歴然としてくる。

本学の学術情報センターが提供する情報検索サービス(両校地図書館共通):

オンライン・データベース系

◇文部省共同利用機関

NACSIS-IR

国文学研究資料館データベース

◇商用データベース

日経ニューステレコン

DIALOG

オフライン・データベース系

◇CD-ROM関係

リーガル・ベースその他

(学術情報センター報 No. 4 参照)

(その場合、有料のオンライン検索であるならば、使用料金が著しく異なってくるから、代行検索でもない限り、skillsの優劣は看過し得ない。)その結果、1回生のときから図書館を頻りに利用すべきであったと後悔するにいたる。

その意味で、学生諸君は本学の学術情報センターを日頃から大いに利用すべきであり、また米国やわが国の慶應義塾大などの例にみられるように、「図書館利用教育／情報処理」^{注)}の授業が必要になってくる。先に筆者が『びぶりおてか——同志社大学図書館報』(No. 25)で提言したように、この種の授業はあえてレファレンス担当のスタッフが起用されるべきである。それと同時に日頃、本学の教員や学生諸君の情報要求に関する一連の行動について、大がかりな調査が必要だと思われる。そのことにより、図書館側が情報提供サービスをより高質の、しかもきめの細かいものにすることが可能となり、より優れた“学術情報センター”が期待されるからである。

(注. 個人的レベルの情報処理に重点を置き、情報・情報源の種類と特性、情報の収集法、入手法、図書館その他の情報機関の利用法、文献やデータの整理法、レポートや論文の作成等について考察。一方、学生は各自最も関心のあるテーマを選び、講義の流れに従って各自のテーマについて情報処理の演習をしつつ、最後にその結果をまとめてレポートを提出する。)

(わたなべ しんいち・文学部教授)



レファレンス・コーナー(今出川)

経済学とデータ

河 合 宣 孝

社会科学を学ぶとき、日頃新聞に掲載される記事などにも目を通し、そこに現われている現象を意識して読み解こうという努力も必要である。以下に、経済現象を取り上げ、社会科学におけるデータの重要性を述べてみたい。

GNPとは

3月13日付けの各紙の経済欄には、昨年1年間（平成4年）の名目国民総生産は469兆円、実質国民総生産は424兆円、その名目の成長率は3.8%で実質の成長率は1.5%で、景気後退は長期化の様相を呈すると報じられている。その紙上の国民経済計算表と日本経済についての詳細な報道は、一昔前までは経済新聞だけがコメントする程度であったが、今や全く様変わりである。



景気後退を報じる新聞各紙(3/13付)

それではGNPの1つのデータから、どのようなメッセージが得られるのだろうか。まず、国民総生産(GNP)はマクロ経済学のテキストを開けば、必ず最初に出てくる専門用語である。GNPとはある一国で、一定期間（通常は1年）に生産されたすべての財・サービスの正味（付加価値）の総計を表わす。理論的には、GNPそれ自身はその国に存在する資本、労働、土地、技術等によって生産される。その生産された

財・サービスは企業には投資財として、家計(消費者)には消費財として、さらには政府部門から、海外からも需要される。したがって、GNPの水準はそれらの需要の大きさ(＝国民総支出)によって左右される。

もちろん、その需要を充足させるには所得が必要であり、資本、労働、土地のそれぞれの対価である利子・配当、賃金、地代がその所得の源泉となる。これらの稼得された所得(＝分配国民所得)は国民総支出と一致する。

以上より、一国の経済はGNPの生産面からだけでなく、分配、消費の側面からも捉えられる。

2つのデータの必要性

GNPには名目と実質の2種類ある。本来、貨幣という物差しが不変であれば、名目と実質は同じになり、前年のGNPと今年のGNPとを直接比較することができる。しかし、現実には貨幣という物差しが伸びたりするので、前年と今年の経済の実態とを単純には把握できないことになる。通常、貨幣による水ぶくれ部分(＝物価上昇)を除去するために、名目値を物価指数で割ることをデフレートといい、その物価指数をデフレーターという。例えば、昭和60年を100とする総合的物価指数が、今年は110.5であれば、 $469 \text{ 兆円} \div 1.105 \div 424 \text{ 兆円}$ を得る。60年の基準年に基づく平成4年の実質GNPは424兆円となり、45兆円が物価上昇による水ぶくれ部分ということになる。

また、国民総支出は民間最終消費、投資、政府支出、輸出、輸入からなるが、とくに輸出入は貿易収支と呼ばれる。この貿易収支が黒字で、しかもそのうちの約30%が対米黒字である。これだけでも、経済摩擦の引き金となるが、問題は黒字幅が前年に比べて増加したかどうかである。いま、その黒字幅が10億ドル増加すればどうか。米国内で日本のものがよく売れて、

米国のものが売れなかった結果であると言えば、それまでである。しかし、それではなぜ経済摩擦か。全く単純に考えて、米国の平均年収が3万3千ドル程度とすれば、いま、10億ドルあれば3万人以上の雇用機会を創出することができる。そうであれば、米国は黙っていないであろう。

多数のデータの必要性

第1次オイル・ショック時のように、GNPが対前年に比べて減少すれば、GNPの生産に必要な資本、労働、土地、技術などにどのような影響を与えるのか。GNP生産の減少はそれらのいずれか、あるいはすべてが減少した結果である。したがって、それらへの対価も減少し、所得も支出も減少することになる。資本の減少は遊休な生産設備として、労働の減少は失業率の上昇という形で表面化してくる。

そこで、資本、労働、土地などの減少もなく完全利用された場合に生産できたであろうGNP（＝潜在GNP）と、現実のGNPとのギャップが生ずることになる。潜在GNPがそのGNPと一致する保証はない。すなわち、その潜在GNPが現実のGNPを上回れば、インフレを引き起こし、それが下回ればデフレを引き起こす。単純に言えば、景気循環は必然的である。

当然ながら、こうした景気循環をできるだけ軽微にすることが、国民経済全体として望ましい方向であろう。そうするには、潜在GNPが現実のGNPにつねに等しい、あるいはほとんど等

しい状態にすることであろう。どうすれば、そのようなことが可能となるであろうか。ここに、政府あるいは金融当局による政策介入の根拠を見出すことができよう。

しかし、実際、それらの政策がとられていても、好・不況を経験してきた。過去の景気について大雑把な特徴や傾向を知るために、長期間のデータが必要となってくる。図1に示されているように、過去の実質GNPの成長率の系列をとれば、日本経済が不況といわれたのは、第1次オイル・ショック以前では成長率が6%前後、それ以後は3%以下の場合である。明らかに、昨年の日本経済は不況であった。

今後の日本経済

それでは、今後の景気を占う意味で、ここ最近の民間消費、投資、政府支出、輸出などのデータをもとに、今後の景気動向について予測してみよう（表1参照）。民間消費は現在低迷していて、急激に増加するとは思われない。政府が思い切った消費刺激策、例えば大幅な減税をすれば話は別である。税金が伸びない時に減税をすればその不足部分を国債で賄わなくてはならない。政府は大量の国債の存在と政治的な理由（野党が減税を提唱し、それを勝取ったという選挙宣伝）で減税に消極的である。

つぎに民間投資について、公定歩合が戦後最低の2.5%になっても、依然として設備投資は低調である。というのは、一般的に金利が落ちれば投資が増えるといわれているが、金利を低下させても、一向に投資が増えない。ケインズは『一般理論』で、このような経済を「流動性のワナ」の状態にあると呼び、1930年代の英国経済がまさにそのような状況にあるとした。現在の日本の経済情勢は金利と投資の実物経済からみれば、まさにケインズのいう「流動性のワナ」の状況であると言えよう。ただし、30年代には大量の失業が存在したが、現在はほぼ完全雇用の状態にあるという点が大きく異なる。

政府支出の拡大はどうかと言えば、

図1 実質GNP成長率の推移(対前年比 %)



(資料) 経済企画庁「国民経済計算年報」

巨額な赤字国債の存在のため、せいぜい公共事業の前倒し程度で多くを望めない。

最後に、現在の景気を支えている主要因は輸出であるが、これが伸びているから、実質成長率が1.5%に踏み止まったといっても、過言ではないだろう。しかし、さらに輸出の増大が貿易収支の一層の拡大につながれば、再び、対米、対ECとの経済摩擦が再燃する。それを防ぐには内需拡大ということになる。消費も投資も低

調で、今以上の政府支出も輸出もダメ。明らかに、政府が何もしなければ、内需拡大はお題目だけになり、7月のサミットでは非難されよう。

いまや政府は公定歩合の引き下げだけに頼らず、なんらかの手を打つ時期に来ている。所得減税と消費税の導入との組み合わせが円高不況を克服できたように、大幅な減税を直ちに実施すべきであろう。

(かわい のぶたか・経済学部教授)

表 1

実質国民総支出 (季節調整系列)

(1985暦年基準) (単位:10億円、%)

	1991 年				1992 年			
	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
民間最終消費支出	233506.6 (0.3)	236347.5 (1.2)	238330.1 (0.8)	239741.1 (0.6)	242116.9 (1.0)	240078.7 (-0.8)	241924.7 (0.8)	240559.8 (-0.6)
民 間 住 宅	22388.1 (-2.9)	21198.6 (-5.3)	20393.2 (-3.8)	19355.7 (-5.1)	19133.8 (-1.1)	20077.0 (4.9)	20082.6 (0.0)	19292.8 (-3.9)
民間企業設備	91177.6 (2.1)	90710.5 (-0.5)	91143.9 (0.5)	90249.5 (-1.0)	90092.9 (-0.2)	88244.8 (-2.1)	86735.8 (-1.7)	84076.3 (-3.1)
民間在庫品増加	3276.4 (40.9)	3455.7 (5.5)	4438.0 (28.4)	4189.3 (-5.6)	4219.5 (0.7)	2811.6 (-33.4)	1281.8 (-54.4)	2798.3 (118.3)
政府最終消費支出	35025.9 (0.9)	34635.1 (-1.1)	34325.0 (-0.9)	34812.7 (1.4)	35223.0 (1.2)	35459.7 (0.7)	35646.3 (0.5)	35763.2 (0.3)
公的固定資本形成	25971.4 (0.1)	27779.6 (7.0)	26681.5 (-4.0)	27899.9 (4.6)	28894.6 (3.6)	31102.8 (7.6)	30108.8 (-3.2)	31279.3 (3.9)
公的在庫品増加	54.2 (*****)	-339.4 (-725.7)	160.4 (*****)	-674.2 (-520.4)	56.3 (*****)	164.1 (191.2)	-194.9 (-218.8)	-254.5 (*****)
経常海外余剰	3467.8 (669.0)	3443.4 (0.7)	3732.4 (8.4)	5672.4 (52.0)	5920.1 (4.4)	7747.5 (30.9)	7576.1 (-2.2)	10158.7 (34.1)
輸 出 等	75659.7 (2.7)	74609.6 (-1.4)	76809.7 (2.9)	77984.0 (1.5)	78381.9 (0.5)	77054.1 (-1.7)	77779.4 (0.9)	79216.4 (1.8)
財貨・サービスの輸出	57305.5 (0.7)	56353.2 (-1.7)	58439.1 (3.7)	59995.5 (2.7)	60605.0 (1.0)	59817.2 (-1.3)	61028.1 (2.0)	62053.3 (1.7)
要素所得の受取	18354.1 (9.5)	18256.4 (-0.5)	18370.6 (0.6)	17988.5 (-2.1)	17776.9 (-1.2)	17236.9 (-3.0)	16751.3 (-2.8)	17163.1 (2.5)
輸 入 等	72191.9 (-1.4)	71166.2 (-1.4)	73077.3 (2.7)	72311.6 (-1.0)	72461.8 (0.2)	69306.6 (-4.4)	70203.3 (1.3)	69057.7 (-1.6)
財貨・サービスの輸入	57091.1 (-2.8)	55631.6 (-2.6)	57699.7 (3.7)	57155.8 (-0.9)	57682.0 (0.9)	56092.2 (-2.8)	57254.3 (2.1)	56510.5 (-1.3)
要素所得の支払	15100.8 (4.2)	15534.7 (2.9)	15377.6 (-1.0)	15155.9 (-1.4)	14779.8 (-2.5)	13214.4 (-10.6)	12949.0 (-2.0)	12547.2 (-3.1)
国 民 総 支 出	414868.1 (1.6)	417231.0 (0.6)	419204.3 (0.5)	421246.4 (0.5)	425657.1 (1.0)	425686.2 (0.0)	423161.2 (-0.6)	423673.9 (0.1)
国 内 総 支 出	411614.7 (1.4)	414509.2 (0.7)	416211.3 (0.4)	418413.7 (0.5)	422660.0 (1.0)	421663.7 (-0.2)	419358.9 (-0.5)	419058.0 (-0.1)

(注) 1. 上段は実数、下段の()内は前期比。

ただし、前記の実数が0またはマイナスの場合には伸び率を計算せず、***とした。

2. 実数のみ年率で表示。

(資料) 経済企画庁『四半期国民所得統計速報—平成4年10～12月期』より作成。

DOORSが開く情報の世界

—新オンライン目録検索システム稼働—

本学のオンライン目録検索は、学術情報センターが発足した1991年4月から、従来のラインモードによるコマンド方式に代わって画面誘導方式のオンライン目録検索システム（DOORS）が利用できるようになりました。このDOORSにより、誰でも簡単に、しかも複数の人が同時に様々な場所で図書資料の検索をすることが可能になりました。学術情報センターでは、さらにOPAC（オンライン閲覧用目録Online Public Access Catalog）としての機能を高めるため、学術情報関連業務全体の有機的なシステム化に向けて、新学術情報システムの開発に取り組ましました。

1991年秋より開発に着手してきました新学術情報システムのうち、目録検索システム、目録作成システム、貸出・返却システムが本年4月より稼動しましたのでその概要をオンライン目録検索システムを中心に紹介します。

新DOORSのおもな特徴

- ①ラーネッド記念図書館と全学の図書情報を和書と洋書のデータベースに統合しました。図書を検索する際、和・洋の切り替えだけで、全学の所蔵情報を一覧できるようになりました。ロシア語の資料は洋書で検索できます。
- ②「書誌データ詳細・所在表示画面」（図2）が見やすくなりました。書誌情報と所蔵情報の表示を画面の上下に分けました。所蔵部科は、

今出川図書館、ラーネッド記念図書館、各部科の順に上から下へ表示されます。

- ③DBMS（DataBase Management System）を採用することにより、リアルタイムで詳細な所蔵情報（所蔵部科、配架場所、貸出中、製本中等）を画面（図2）で確認できます。
- ④初期画面（図1）の「分類」入力エリアに、日本十進分類法第8版の分類記号を入力することにより、全ての図書が検索できます。
- ⑤旧字体を使った書名の検索において、新旧、いずれの字体を入力しても検索できます。以前は旧字体を使った書名を、新字体で検索するとヒットしませんでした。
- ⑥各巻に書名がある図書は、双書名（シリーズ名）からも各巻書名からも検索できます。

検索できる資料のタイトル数とファイルの更新

ラーネッド記念図書館と全学の書誌情報をISBN（国際標準図書番号）、書名、著書名、出版者等をキーにして重複調査を行いました。この結果、約50,000タイトルの重複していた書誌を統合しました。こうして、検索対象データベースの面でも、図書および逐次刊行物と、各々の中にある和書・洋書のデータベースが容易に検索できるようになったことで、ユーザ・フレンドリーなOPACが構築できました。

①図書

原則として、1964年4月以降受け入れのもの

図1 DOORS初期画面

DOORS 図書 和書 同志社大学オンライン目録検索	4 件 AND 和 図
書 名 [DAIGAKUSEI TOSHOKAN]	
ヒット数 46 1514	
著 者 []	
分類 件名 []	
4件ヒットしています 詳細表示はカーソルを見たい行に移動し実行キー	
1. 図書館における調査と研究：大学生のための入門書／小林矩子著	
2. 大学生と図書館／日本図書館研究会編 天理：日本図書館研究会，	
3. 図書館における調査と研究：大学生のための入門書／小林矩子著	
4. 大学生と図書館／日本図書館研究会編 天理：日本図書館研究会，	
図書 逐刊 和洋 手引 AND OR 前掲 後掲 前画 後画 終了 消去	

図2 DOORS書誌データ詳細・所在表示画面

DOORS 書誌データ詳細・所在表示画面	2/4 件
請求記号： 010 N	
書名著者： 大学生と図書館 / 日本図書館研究会編	
版表示： 第2版	
出版事項： 大阪：日本図書館研究会，1989.3	
形態事項： 179p；26cm	
書誌ID： 10380276	
	所蔵 配架場所 状態 備考
8500425825	図 開架 貸出中
8500474740	ラ 開架 017.7 3"
8110061286	英文
9320011152	人研
9210017777	EC
手引	前書 後書 戻り 検索

で、1993年3月現在で約510,000(和書310,000、洋書200,000) タイトルが検索できます。ファイルの更新は毎週行います。

②逐次刊行物

本学所蔵の全ての逐次刊行物が検索できます。1993年3月現在で、約23,000(和書15,000、洋書8,000) タイトルが検索できます。ファイルの更新は3週間ごとに行います。

③日販新刊情報

日本国内で約半年から1年以内に出版された図書がすべて検索できます(コントロール+PF1)。ファイルの更新は毎週行います。

検索方法(図書館以外)

学内すべての端末から検索できます。オンライン画面でDOORSと入力してから実行キーを押すと、初期画面が表示され検索が可能となります。なお、終了はPF11キーを押してください。

新規入力部科

1992年4月より、アメリカ研究所、アメリカ研究科の洋書の入力を開始しました。また、本年4月からは、人文科学研究所、EC資料センターの新規受入図書資料の入力を開始しました。これにより全学の図書資料が検索対象となりました。

遡及入力

1964年4月以降1982年3月までに受け入れた新分類図書約230,000(和書119,000、洋書111,000) タイトルの図書について、1991年度より遡及入力を開始しました。1993年3月現在で和書80%、洋書50%を入力済みで、今後2年以内に新分類図書すべてを入力する予定です。

非図書資料

1992年4月より、ビデオテープ、レーザーディスク、オーディオテープ、音楽用CD等の「非図書資料」の入力を開始しました。日本語のタイトルを持ち、日本の製作会社または販売会社が作成したもの、外国系の会社でも、日本名の支社名をもつ会社が日本語のタイトルで作成ま

たは販売したものは和書扱いです。その他は原則として洋書扱いです。

ラーネッド記念図書館の請求記号

ラーネッド記念図書館開館以降1992年12月まで受入の図書には、独自の請求記号が付与されてきましたが、今後受入の図書は全学共通請求記号を付与します。なお、分類はすべて日本十進分類法第8版による分類です。

新目録作成システム

1990年4月より、文部省の大学共同利用機関である学術情報システムに参加し、NACSIS-CAT (National Center for Science Information System CATalog) 利用による目録作成システムを運用しておりますが、これらの機能をさらに高め、またNACSIS-CATに登録できない同志社大学独自のデータの作成を可能にするためのシステムを開発しました。これらにより書誌修正、複本入力、除籍等の目録データ管理が画面上で容易にできるようになりました。

新貸出・返却システム

ラーネッド記念図書館と今出川校地図書館の貸出関連システムを統合しました。また図2にありますように、貸出中、修理中などの「状態」表示や、開架、閉架等の「配架場所」表示など、閲覧関連情報をリアルタイムに目録検索画面に表示できるようになりました。

オンラインによる目録検索は、カード目録による検索と異なり、正確な書名、著書が判明していなくても、単語単位での多様なアクセスポイントから全学の図書資料、逐次刊行物を検索できます。情報化時代の新しい検索ツールとして多くの利用者が有効に利用されることを期待します。

一次資料と二次資料

大学生になって、クラスやゼミでの研究発表論文やレポートの作成のために資料を集めようとすると、利用したい学術資料の範囲がこれまでに利用してきた「図書」の範囲を大きく超えていることに気付き、戸惑いを感じられたことがあるのではないのでしょうか。

研究対象に何を選び、どのような観点で資料収集をするかと言う方針が立っても、次の段階になって、求める資料がどこに有るのか、どのようにして探し、入手することができるのか意外とわかっていないものです。

この連載では、学術情報センターが提供している学術資料の世界を図書・雑誌などの印刷物だけでなくデータベース、AV資料、CD-ROM、マイクロフィルムなどの資料も含めて、学術資料をさがす着眼点や利用、入手方法などについて紹介します。

資料は大きく分けて、一次資料と二次資料があります。聞きなれない用語だと思いますが

一次資料とは

利用者に情報を提供するため刊行・作成されたオリジナルな資料で、単行本、雑誌、新聞、論文集、議事録、判例、統計書、年鑑、図画、ビデオテープ、録音テープ、マイクロ資料、磁気テープなどの類

二次資料とは

一次資料への案内・手引きとなる目録、書誌、抄録、索引、図書解題などの類。大別して図書目録、雑誌目録、文献目録などの書誌と雑誌や技術リポートなどを対象とした抄録・索引誌などがある。刊行形態は冊子体が多いが、最近ではコンピュータによる情報検索ができるものもある。
(最新図書館学事典 草野正名編 より)

具体的な例でみると、経済問題、特に現在の不況について書かれている図書が読みたいと思っていたところ、新聞の書評欄で数点の現在の経済問題について書かれた図書の紹介があり、その中から「複合不況」という図書の内容が読みたいと思っていたものと一致した。そこで図

書館もしくは書店で「複合不況」を入手した。この場合「複合不況」という一次資料を「書評」という二次資料を利用して探したことになります。

新刊案内、書評など身近にある二次資料を利用すると書架に並んでいる図書の中から次々に探していくのに比べてずっと多くの情報を簡単に得ることができます。新刊本だけでなく、過去に出版された多くの図書から資料を探すために各種の二次資料があります。

「日本著者名総目録」「翻訳図書目録」「国立国会図書館蔵書目録」などの総合的な目録や「国史文献解題」「人物文献目録」「伝記・評伝全情報」「法学文献総目録」「日本民俗学文献総目録」「写真集全情報」「英米文学研究文献要覧」「現代日本文芸総覧」などテーマ別の文献目録が出版されています。

これらの二次資料は025～028に分類され、今出川は参考図書室、田辺は参考図書・雑誌室に配架されていますので、手に取って見ることができます。

資料収集には二次資料をいかにうまく利用して膨大な資料の中から目的の資料を探し出すかがポイントです。具体的な例により資料収集の方法を見てみましょう。

「国連平和維持活動について」レポートを作成する

一番簡単な方法は今まで新聞やテレビの報道などで知った知識によりレポートを書くことです。しかしこの方法はよほど関心を持っていた問題でないかぎり感想文ならともかくレポートや論文を書くとなると困難でしょう。

やはり資料がないとレポートが書けないとなるとどうするか。図書館に行って書架に並んでいる図書を見渡して適当なものを探す方法を思いつくでしょう。でも開架閲覧室には今出川約7万冊、田辺約10万冊の図書があります。もちろん分類別に配架されていますので、該当する分類を分類表で調べて目的の書架に行くことは可能です。しかし館内で利用中の場合や、貸出中で書架に無い場合もあり、また一箇所に分類されているとは限りませんので確実に探せる方法とはいえません。運良くみつからない限り書架の回りをうろうろする結果となりがちです。

そこで目的の資料にたどりつくためには、二次資料といわれる資料類を利用することがより多くの資料を早く確実に探し出せる有効な方法なのです。

まず一番手近な二次資料としてオンライン目録検索を利用しましょう。同志社大学所蔵資料を調べるときはDOORSで検索します。レポートのテーマから国連・平和・維持・活動・PKOなどの単語がキーワードとして利用できます。これらのキーワードを単独または組み合わせて検索すると「国連平和維持活動」「PKO問題の争点」「国連とPKO」などの資料が見つかります。もちろんどこに分類されているかも判りますので資料にたどり着けます。またみつかった資料の巻末などに掲載されている参考文献も二次資料として利用できます。

それでも満足する資料が見つからなかったり、もっと多くの資料を探したい場合があると思います。オンライン目録検索では同社大学で所蔵している資料しかわかりませんが、文部省学術情報センターの情報検索サービスNACSIS-IRで検索すると全国主要大学での所蔵資料がわかります。また「出版年鑑」や「日本件名図書目

録」「国立国会図書館蔵書目録」などで探すと、どのような資料が出版されているかがわかります。

今までの検索は図書資料のみの検索でしたが、最近の話題となると雑誌や新聞の記事・論文がレポート作成には役立ちます。これらを探すには雑誌記事索引誌、個々の雑誌の総目次・総索引、日経テレコンによる新聞記事検索などにより雑誌・新聞の記事・論文が探せます。

国連平和維持活動に関する雑誌記事は「雑誌記事索引 人文科学編」の“国際関係”および“国防・軍事”の項目で「国連の平和維持活動と日本の参加協力」(法学セミナーNO.443)「PKO協力法案とは何か」(技術と人間 20(11))などをみつけることができます。次にこれ等の記事を掲載している雑誌が同志社大学で所蔵しているかをオンライン検索で調べればよいのです。

新聞の記事を探すには日本経済新聞社のデータベースを利用する「日経テレコン」で検索すると、これまで縮刷版の目次を利用して探していたよりもずっと早く記事を探すことができます。

このように所蔵目録、文献目録、雑誌記事索引誌、新聞記事オンライン検索などの二次資料を利用すると、一次資料のみを見て探すよりも短時間でより多くの資料を探し出すことができます。

しかし二次資料を利用して探した資料が全部同志社大学で所蔵しているとは限りません。もし所蔵していない場合は、他大学の所蔵を調べ、紹介状により閲覧をするなり、文献複写申込により資料を入手することができます。

最後に、資料はたくさん集まったがどのよう
にレポート、論文を書けば良いのかわからない。
こんな場合もオンライン目録検索によりレポート論文の書き方の資料を集められます。

まず、DOORSでデータベースを[図書
和書]にして検索します。書名の項に『REPOTO
KAKIKATA』および『RONBUN KAKIKATA』の二
とおりを入力してみてください。レポート・論
文作成に役立つと思われる資料が表示されます。

テープライブラリー所蔵ビデオリスト

今回は、当センター（視聴覚室）のテープライブラリーで所蔵している外国語関連以外のビデオ資料を紹介します。視聴は両校地のテープライブラリーでできます。貸出はできません（授業への貸出は可）。

宗教

釈迦とその弟子たち 12巻 (NHK)
聖書の世界 6巻 (ミルトス)

歴史、紀行

世界史体系 15巻 (アポロン)
映像でつづる20世紀世界の記録 30巻
(日本ビクター)
藤ノ木古墳 1巻 (教配)
発掘・吉野ヶ里遺跡 1巻 (NHK)
映像でつづる昭和の記録 32巻(日本ビクター)
カラー秘録太平洋戦史 23巻
(バック・イン・ビデオ)
ベトナム戦争 7巻 (TDKコア)
イギリス革命とフランス革命シリーズ 5巻
(ジエムコ)
アメリカの独立シリーズ 5巻 (ジエムコ)
ソビエトのいちばん長い日 1巻 (教配)
未来への遺産 15巻 (NHK)
新世界紀行 32巻 (ビクター)
シルクロード 30巻 (NHK)
[日中共同取材] シルクロード 24巻 (NHK)
海のシルクロード 12巻 (NHK)
大黄河 10巻 (NHK)
インドこころの旅 3巻 (NHK)
世界を動かした人びと 文化人編 6巻 (丸善)

社会

Japan today 20巻 [英語版]
(インターボイス)
Face of Japan 23巻 [英語版]
(インターボイス)
国会 未来へのはばたき 1巻 (朝日新聞社)
日本国憲法誕生 3巻 (NHK)
社会生活と法 15巻 (放送大学)
日本解剖 日本の戦後経済40年の歴史 1巻
(NHK)
日本解剖 転換期の日本経済 1巻 (NHK)
P.F.ドラッカー 21世紀の企業経営 9巻
(ダイヤモンド社)

自然科学

ナショナル・ジオグラフィック・ビデオ 30巻
(TDKコア)
アインシュタイン・ロマン 6巻 (NHK)
銀河宇宙オデッセイ 8巻 (NHK)
地球大紀行 12巻 (NHK)
エイズの知識と対策 1巻 (教配)
電子立国日本の自叙伝 4巻 (NHK)

芸術・芸能、スポーツ

美術のみかた 10巻 (日経映像)
毎日世界美術館 12巻 (毎日映画社)
ルーブル美術館 13巻 (NHK)
美の殿堂・オルセー美術館 7枚 [LD] (NHK)
マルチェロ・マストロヤニのフィレンツェ・
ルネサンス 6枚 [LD] (NHK)
日本の美 12巻 (日経映像)
NHK美のこころ 国宝名鑑 11巻
(総合教育センター)
日本の美 5巻 (NHK)
The BBC Shakespeare[シェークスピア劇] 8巻
(NHK)
鑑賞入門：能、狂言、歌舞伎 6巻
(アポロン)
日本古典芸能体系 25巻 (日本ビクター)
名人の面影 10巻 (NHK)
NHK日本の伝統芸能 20巻 (NHK)
体系日本歴史と芸能 14巻 (日本ビクター)
通し狂言 仮名手本忠臣蔵 7巻 (松竹)
ウェイト・トレーニング・シリーズ 13巻
(丸善)
最新・陸上競技の科学 10巻
(ベースボールマガジン社)

文学

万葉の海山 3巻 (NHK)
漢詩紀行 5巻 (NHK)
Six centuries of verse 16巻 [英語版]
(日本レンタカラー)

その他

図書館の達人 3巻 (日本図書館協会)

「特別研究図書費」による購入図書資料リスト—1992年度—

特別研究図書費は、部科別配分図書予算ではまかなえない高額の資料（図書および非図書）の収集、現行の部科ごとの収集体制では選択され難いが共通利用が予測される資料の収集、資料の重複の防止等を目的として設定され、共同利用の観点から、学術情報センター（図書館）が収集の窓口となって運用管理し、利用に供しています。

1992年度内に同図書費で購入した資料は次のとおりです。

このリストは、関西四私大（関西・関学・立命・同志社）が相互協力のため、同様の情報を交換しあい、累積して一冊のパンフレットにまとめております。

- | | |
|---|---|
| Annual Reports of the Major American
companies : The First Annual Report
to 1985 : Building Materials/Cement.
26 Companies. マイクロフィルム [PFM 20] | A Collection of Fine Books on The Olympic
Sports and The Olympic Movement.

The Daily Mail. May1896-October1942.
319リールの内154リール マイクロフィルム
[PFM 59] |
| Archiv fuer das Civil-und Criminalrecht der
Koeniglichen Preussischen Rheinprovinzen.
Vols. 1-111. Koeln, 1820-1915. [320;A5] | 大日本農會報告
1号 (明治14年) - 133号 (明治25年)
[P610.1;D] |
| Aristotelian Society for the Systematic Study of
Philosophy : Proceedings. [P131;P]
Series 1 : Vols.1-3(all published).
London 1888/89-1895/96.
New Series : Vols.1-89.
London 1900/01-1989.
Supplementary volumes:Vols.1-63.
London 1918-1989. | 大日本農會報
134号 (明治25年) - 625号 (昭和 7年)
[P610.1;D]

農業
626号 (昭和 8年) - 957号 (昭和39年)
[P610.1;D] |
| Bibliotheca Shakespeariana.
Unit 3: Shakespearian Society
and Institutions.
Unit 4: Music; Songu and Ballad
in Shakespeare's Time.
Unit 22: Shakespeare on the
Stage, 1820-1980.
Unit 28: Religious, Legal and
Political Thought.
マイクロフィッシュ [FF 4] | Records of the Kennedy Administration,
1961-1963.
マイクロフィルム [FM 60]

Revue des Deux Mondes.
Series 11-14 (1901-1944) [P055;R4]
and continued as : Years 1948-1971.
and continued as : Nouvell Revue
des Deux Mondes.Years 1972-1987.
464 Vols. |
| Census of India Reports, 1872-1951
マイクロフィッシュ [FF 19] | The Times (London). Years 1909-1920.
マイクロフィルム [PFM 1] |
| Civil Law I France : A Basic Collection.
マイクロフィッシュ [FF 20] | Zinzendorf, Nikolaus Ludwig Von,
Schriften. [198.41;Z]
(18世紀オーストリア宗教家ツィンツェンドルフ主著集) |

〈お知らせ〉

◆オンライン目録検索システムが稼動

「DOORS」で親しまれているオンライン目録検索システムが、1993年4月より新しくなりました。本号でもご紹介いたしておりますように、ラーネッド記念図書館と今出川校地図書館の書誌データベースが統合されるなど、多くの点を改善して、利用者みなさんが使い易いものにいたしましたので、大いにご利用ください。

◆学術情報センター利用説明会

学術情報センターでは、各種の利用説明会を開催いたしております。

通常は利用者が入庫できない今出川校地図書館の閉架書庫の入庫説明会や書庫見学、オンライン目録検索説明会などを適宜実施いたしております。詳細は掲示板等でお知らせいたします。

計算機室では、コンピュータ講習会を開催いたします。日程等は、決定次第、計算機室掲示板でお知らせいたします。ふるってご参加ください。

◆ラーネッド記念図書館の開館時間変更

6月21日(月)～7月22日(木)の間、ラーネッド記念図書館の開館時間を次のとおり延長いたします。今出川校地図書館や、両校地の視聴覚室と計算機室は平常どおりです。詳細は、各施設の掲示板をご覧ください。

夏期休暇中の変更につきましては、追って掲示板等でお知らせいたします。

	1 階	2・3 階
月～金曜日	9:00 ～ 19:00	9:00 ～ 18:00
土 曜 日	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 16:00